

平成19年度 校内研修のまとめ

備前市立吉永小学校  
校長 實盛 さよ子

1 研究テーマ 自分の思いや考えを持ち、進んで伝え合う児童の育成

2 研究テーマ設定の理由

本校は、昨年度より、国語科を中心として、自分の思いや考えを進んで伝え合う力を育てる研究を進めてきた。特に自分の思いや考えをもたせる場面を大切に取り扱い、授業展開の工夫、支援のあり方について研究を深めた。また、よりよい話し合いの仕方を考えさせ、伝え合うことの大切さを実感させるように努めた。その結果、話し合いの前に自分なりの考えをしっかりと持たせることにより、自信をもち進んで発言する児童が増えてきた。そこで、今年度はさらに、伝え合う場面において学習が深まったり広がったりすることができるよう指導方法を工夫していきたい。

そして、児童に、共に学び合う喜びや充実感を味わわせたい。また、話す・聞く力のベースとなる豊かな言語感覚を培うことができるよう、学校生活のいろいろな場面で、伝え合うための基礎となる力を育てていきたいと考える。

3 研究内容及び成果

(1) 研究方法

全教職員の共通理解を図りながらの定期的な校内研修  
全員公開授業による授業を通しての実践的研究  
指導主事、講師を招いての研修  
文献による研究や先進校視察、研究会への参加

(2) 研究内容

「読むこと」の授業を主とした、思いや考えを豊かに伝え合わせる指導方法の工夫改善

豊かな言語感覚を育てる継続的な指導と場の工夫

研究授業と研究協議、講師を招いての研修

- ・第1学年 国語科 みんなでよもう 教材名「大きなかぶ」  
おはなしをたのしもう 教材名「たぬきの糸車」  
講師：岡大附小 久次正浩教諭
- ・第2学年 国語科 ようすを考えて読もう 教材名「お手紙」  
大事なところに気をつけて読もう  
教材名「サンゴの海の生きものたち」
- ・第3学年 道徳 「はたらくって気持ちいい」  
(岡山県小学校道徳教育冬期研修会研究発表のため)  
国語科 本と友だちになろう 教材名「三年とうげ」
- ・第4学年 国語科 場面をくらべて読もう 教材名「一つの花」
- ・第5学年 国語科 人物の考え方や生き方をとらえよう  
教材名「わらぐつの中の神様」  
講師：磯本宏幸指導主事  
学習したことを生かして  
教材名「大造じいさんとガン」
- ・第6学年 家庭科 「まかせてね きょうのごはん」  
(備前市家庭科部会授業研究のため)

### (3) 研究の成果

#### - 授業研究部 -

伝え合う力を伸ばすための指導法として、昨年度は、丸ごと読みを中心とした研修をした。今年度は、多様な読みについての指導法の研修を、研究授業を通して深めることができた。児童の実態や单元ごとの身につけさせたい読みについて検討を重ねた上で、伝え合う活動を大切に扱うことができた。

講師の先生を招いての丸ごと読みを中心とした講話を聞く機会を持ったり、いろいろな読みの指導法についての外部の研修会に参加したりすることにより、全職員で、他校の実践、先進校の取り組みについての研修を深めることができた。

伝え合う場の設定の工夫（少人数での伝え合いからクラス全体での伝え合いへ、鉛筆対談など）、焦点を絞った伝え合う活動の工夫（児童の意見の取り上げ方、板書への位置づけ方、こだわらせたい言葉や文についての指導のあり方など）、具体的な教師の手だてを研修することができた。

伝え合う活動を充実させることによって、児童は主体的にその時間のねらいに迫ることができやすくなり、授業の終わりには、自分なりに作り出した読みを意欲的に書いたり発表したりすることができた。授業のまとめでの児童の感想から、伝え合う楽しさを実感できた児童も増えてきたことがわかった。

学校司書の協力により、文学教材の単元の入り口や出口で教材に関連した本を児童に与えることができた。教材と読書が一体となった単元の流れがスムーズにでき、児童の読書への興味が深まった。

#### - 言語環境部 -

5月と2月に行ったアンケートの結果から、自分の思いを伝えることに抵抗を持つ児童が、少しずつ減ってきていることが分かった。授業での伝え合い活動、朝の会・帰りの会でのスピーチなどの取り組みなどにより、大勢の前に立って話すことに慣れてきたこと、安心して自分の意見が言えるクラスの人間関係づくりに努めたことが効果的であったと考えられる。また、アンケートは記名式とし、教師は一人一人の意識に即した指導を年間を通して行うことができた。高学年は、自己評価ができるアンケート形式とし、自分は次にどのレベルをめざせばよいのかがわかりやすかった。

学校司書やボランティア、委員会による読み聞かせ、週2回の全校読書、児童玄関の詩の掲示など、豊かな言語を培うための取り組みを継続して行った。学校司書の協力により、図書室が充実し、児童が読みたい本を手にしやすくなり、進んで読書に親しむ児童が増えた。

集会では、児童がみんなの前で発表する機会を多く作った。代表となった児童は、大きな声で自分が言いたいことを発表することができた。

### 4 今後の課題

「話すこと」「聞くこと」「話し合うこと」についての育てたい力を共通理解した上で今年度の研究をスタートした。めざす伝え合う姿については、さらに学年ごとに詳しく設定し、6年間を見通した伝え合う力を育てていきたい。伝え合うためには、一人読みの段階での読解力をつける必要性を感じた。自分に合った本を選んで読書をすることや国語辞典、漢字辞典を身近において進んで活用する習慣をつけるなど語彙を豊富にすることに努め、一人一人の読解力を育てるための指導や環境整備も合わせて研究していきたい。